

家を建てるときのドイツの習慣第2部：Wanderjahre



WATARIDORI
～渡り鳥～

ドイツからやってきた国際交流員(CIR)の
アネマリー・グンツェルさんが、ドイツの文
化や田川での生活などを紹介します。

●アネマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawacir.wordpress.com/>

スマホ、携帯電話は
こちらから

QRコード➡



今回は、日本語で「修行の旅」を意味するWanderjahreと呼ばれる習慣を紹介します。Wanderjahreを行うのは、建築や工芸職人の資格を取得した職人です。現在はドイツ語圏の国だけの習慣になっていますが、元々はヨーロッパ各地で発展していました。ドイツでの歴史は古く、中世後期から始まりました。職人は、さまざまな作業場で経験を積むため、町を渡り歩きます。期間は2年～6年で、その間は「故郷に帰らない」「伝統的な服を着る」



▲ヒッチハイクをする
職人たち

「移動は徒歩か、ヒッチハイクに限る」など、伝統的な決まりを守って修行に励みます。この習慣は職人に義務付けられ、男性のみに限られていましたが、現在は義務ではなく、女性も挑戦できるようになりました。今もなお受け継がれている伝統が評価され、Wanderjahre は、2015年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。現在、修行の旅に出ている職人は約500人。腕を磨きながら歩き続けた日々が職人を育て、人の暮らしや街を支える礎になっています。

今日の言葉
ライゼ
Reise (旅)